議　　長　　受付番号第９号、小澤啓司君の一般質問を許します。登壇願います。

８　番　小　　澤　　おはようございます。一般質問をさせていただきます。受付番号第９号、質問議員、８番　小澤啓司。件名、町政運営の具体的施策を問う。

要旨、本山町政２年が経過し、人口減少対策の推進やおもてなし精神の向上、観光客誘致、ＩＣＴ教育の導入、ふるさと納税制度の充実など、町政運営の方針が見えてきました。下記について質問をいたします。

①　これらを具体化するため、平成28年度予算編成の重点施策は。

②　ＪＲ松田駅のＩＣカード導入やＪＲ駅前公衆トイレの設置は。

以上でございます。よろしくお願いします。

町　　長　　それでは、小澤議員の御質問に順次お答えをさせていただきます。平成28年度につきまして、現在編成中でありまして、予算編成につきましては、詳細につきましてはですね、まだ回答できる段階ではないので、かいつまんだ話になりますけれども、御了承いただきたいというふうに思います。

平成28年度予算編成につきまして、財政面をしっかりと考慮した上で、定住人口増加に向け、これから申します５つについて留意しながら編成するように指示をしているところでございます。１つ目に、総合計画等の着実な推進。２つ目に、国・県の動向の把握と補助金等の確保。３つ目に、自主財源の確保。４つ目に、所要経費の的確な算定。５つ目に、特別会計などの運営改善等でございます。地方財政を取り巻く環境が厳しい中にあって、私が掲げております定住化促進による人口増加に取り組み、町民と職員が一丸となって知恵を振り絞り、汗をかき、危惧されている人口減少を食いとめ、将来の松田町の飛躍につなげていくために必要な人づくり、仕事づくりを実現し、付加価値の高い効果を上げられるような予算とする所存でございます。

さて、議員御質問の予算編成の重点施策についてでございますが、近年の行政需要の高まりは多岐にわたり、必要なものには十分な予算配分を行うことを基本としておりますが、反面、財政について税収や交付税その他財源が十分とは言えず、大変厳しい予算編成になろうかというふうに考えております。限られた財源の中、平成28年度、新しいまちづくり、新アクションプログラムの２年目に当たることから、各施策の進捗状況に目を配り、必要に応じアプローチ

の仕方を見直すなど検討し、特に重点事業として位置づけられている事業の目標達成に向けて着実な推進を図るために、適切かつ確実に予算編成に取り組んでまいりたいというふうに考えております。また、地方創生は待ったなしでございます。現在、審議会において議論していただいている松田町総合戦略に位置づけていく事業にも予算づけをしていく必要性があります。そのためには、国・県と歩調を合わせ、松田町を元気にする事業への取り組みを行ってまいりたいというふうにも考えております。

来年度の予算の中では、私といたしましては３つ柱を掲げております。１つは定住促進であり、交流人口の増加策や空き家対策等を含め、何としても定住人口の増加を図る所存でございます。２つ目が教育関連でございます。現在進めているＩＣＴ教育だけでなく、より広い分野についても推進をしていきたいというふうに考えております。そして３つ目に、少子高齢化による福祉対策でございます。松田町における少子高齢化による弊害を分析し、さまざまなことに対応できるよう取り組んでまいる。そのためにも買い物困難者等々にしっかりと力を入れ、安心して暮らせるような地域づくりを目指す、そういった予算編成に臨むところでございます。

続きましての質問にお答えをさせていただきます。ＪＲ駅の交通系ＩＣカード導入についてでございます。ことしの３月に神奈川県・静岡県の沿線市町で構成する御殿場線利活用促進協議会では、御殿場線利用者へのアンケートを実施しており、5,628名の方から回答をいただきました。その中で御殿場線の不便な点としまして、やはりこのＩＣカードが使えないという声が多くございました。御殿場線におきましては平成22年３月から交通系のＩＣカード、ＴＯＩＣＡが御殿場－沼津間で利用できるようになっておりますが、足柄－国府津間についてはまだ未整備の状況であり、県内におきましてもＩＣカードが使えない区間は御殿場線を含め、ごくわずかでございます。山梨・静岡・神奈川３県サミットでも、３県が連携して取り組むことも合意されており、ＪＲ東海へ要望しております。また、国土交通省におきましても本年２月に閣議決定された交通政策基本計画によれば、平成32年度までにＳｕｉｃａ、ＰＡＳＵＭＯなどの相互利用可能な交通系ＩＣカードを全ての都道府県で使えるようにと、目標

を定めたところでもあります。

このような流れで、現在神奈川県の沿線市町で構成されております神奈川県鉄道輸送力増強連盟御殿場線部会や、御殿場線利活用推進協議会の中でもＩＣカード導入は平成17年度よりＪＲ東海へ強く要望しておりますし、また知事との懇談会や県要望の中でもお願いするなど、多方面から要望しているとこでもございます。松田駅北口駅舎も12月20日には新しい駅舎に移行すると聞いておりますが、改めてＪＲ松田駅長に確認をしてまいりましたが、利用人数が少ないということが一番の要因で、なかなかＩＣカード対応の機器設置は難しいとの回答をいただいております。ただ、松田駅をおりる際には、駅職員さんにＩＣカードを手渡しにはなりますが、ＩＣカードによる精算処理をしていただいているようでございまして、土・日には100名ほどの方が利用されているということでもございます。しかしながら、今後も利用者の利便性向上のために、機会あるごとに要望、またお話をさせていただき、一日でも早くＩＣカードが簡単に利用できるよう、要望してまいりたいというふうに思っております。

２つ目のＪＲ駅公衆トイレの設置についてでございます。定住人口増加策の一つといたしまして、交流人口増加を目指す当町といたしましては、トイレはＪＲ駅前のみならず、ほかにも必要な地域や場所があるというふうに認識をしております。また、まちづくりの観点からも施設設計上で最優先課題との認識をしております。過去にも平成24年にポケットパークを設置するに当たり、ＪＲ駅前公衆トイレの設置について検討された経緯があり、地元自治会や近隣のお店にお話をさせていただいた中、管理面の難しさや、ＪＲ駅前に設置したトイレが荒らされたり、若者のたまり場になったりということから、いずれの方からも御賛同が得られなかったというふうに伺っております。現在駐車場になっているＪＲ松田駅北口用地及びポケットパーク用地を活用した常設の堅固なトイレ建設につきましては、駅周辺整備の計画において総合的な面整備としてトイレ等の場所を決めていくべきだというふうにも考えております。

このようなことから、再度、地域の方々とトイレの必要性や維持管理の問題、また建設費等々の経済性につきましても協議をさせていただいた上で、まずは機能面で対応ができるよう、おしゃれな仮設トイレ等々設置を行う方向で検討

をしておりまして、条件が整った場合には、改めて議員の皆様に御説明を申し上げたいというふうに考えております。

以上でございます。

８　番　小　　澤　　町長コラム「風」、大変愛読をしております。町民の夢と希望を形にして応える、これが私の使命だと。そして、役場と町民がともに汗をかきながらまちづくりをやっていく、これが協働社会の実現だというようなことで、大変すばらしいことが書かれておりますので、ぜひ進めていっていただきたいと思います。私、今回40分という大変短い時間しか設定をしなくて、間違えちゃったなというように感じていますので、今回、前半ですね、時間の前半を町長が宣言をしておりますおもてなし、松田おもてなし宣言、これ８月に町長されました。このおもてなしをテーマとしてですね、幾つか質問させていただきたいと思います。

「明るい笑顔でおもてなし」から始まって10項目がありますけれども、実はですね、これを、おもてなし宣言が出たときに、やはり町民の中に戸惑いの声を聞かれました。それから数カ月がたった中で、まず職員への浸透度はどうなっているのか。これをやはり全職員が実践をしていかなければいけないわけですけれども、職員の総元締めである総務課長、あるいは各フロアの責任者である各階の参事さん、職員に対してどういうような指導、あるいは対応をされているのか、その辺からお伺いします。

参事兼総務課長　　８月におもてなし宣言をしました。それとは並行してというか、それ以前から、今私どもでは職員の接遇に対する、町民あるいは電話対応も含めたそういう接遇面については随分気を使ったつもりで研修等重ねています。職員の中でワーキンググループ等つくった中で、アンケートをとったり、これは年２回ほどとっているのは御承知かと思いますが、そういった中でやらさせていただいています。さらにこういう宣言をしたという中で、それの重要性というのは職員に周知しているところでございますが、そういった中で対応させていただいているところでございます。ですから、どの程度浸透したかということでございますが、当然職員はそういうものだということの中で日々仕事をしているというふうに私は考えておりますので、十分理解した中でしてくれているものと

思っています。また、そういうところの定点観測な意味でも、そういうアンケートとかそれに基づくワーキンググループの中での議論を重ねて、いいものにしていきたいというふうに考えています。

参事兼町民課長　私どもは２階のフロアを管理させていただいております。昨年の10月、機構改革にさかのぼれば、そこで総合窓口ということで、町民課のほうの窓口の事務分担を設定させていただいた中で、おもてなし、町長が以前おもてなしをされた以前に窓口として住民の声かけを、御挨拶を積極的にするようにさせていただいてございます。それでまた、フロアで各、迷っている方がいらっしゃる、町民の方がいられれば、その方に対して積極的に声をかけて御案内するなどの、そういったことをさせていただいておりますし、特に２階のフロア、窓口が大変住民との接触部分が多い部門ですので、積極的に来られた方については窓口でそういったおもてなしというか、声かけをさせていただいているところでございます。以上です。

参事兼観光経済課長　私、１階のフロアを担当しておりまして、まず、私どものフロアにつきましては苦情が非常に多いところでもございます。その苦情が理に合った苦情、いろいろな苦情ございますけれども、迅速な対応に特に心がけるようにという形で、あればすぐに出向くというような形が一番、このところ多い進捗です。

それと、行政サービス自体がおもてなしと考えておりますので、そこいら辺を強く、１階のフロアではサービスの向上自体がおもてなしになるという認識で進めております。以上でございます。

政策推進課長　各課の参事が横の取りまとめをしていると思いますけども、政策推進課としましてもおもてなし推進員というのを各課から出していただきまして、若手ですね、各課の若手でそういう委員会を形成しております。もう何回かその会議を行っておりまして、今後どのようなことができるかをいただいております。また、その若い職員につきましては先日の座談会、座談会にも１回ずつは出るようにという指示をしまして、座談会出た方にはわかると思いますけど、若い子が１人おりまして、それがおもてなし推進員で、全体の雰囲気を考えていただくということで、そういう取り組みも行っております。以上です。

８番　小　澤　８月におもてなし宣言が出されて、町長がこれでやっていくんだよというこ

とに対して、もう少し各フロアで機敏な対応がとれないのかなというようなことを実は感じているんですけれども。よく民間企業で、例えば月間スローガンなんかを掲げたときにですね、製造現場でもそうですし、やはり始業の前にですね、やはり掲げられたテーマを復唱しながら、声を出して読み上げて、そして一日の仕事が始まる、こういうような形をとっているところが多いんですよ。今ちょうど流通業ですと歳末商戦ということで、各スーパーやデパートがやはり始業前に各フロアごとにこの与えられたテーマをですね、読み上げながら、大きな声を出して一斉に読み上げる、これを何回も何回も繰り返すことによって職員のモチベーションが上がっていく。自然と身についてくるわけですけれども、そういう手法を民間企業ではとっているわけです。ところが、この役場の中で、私けさも各フロアずっと歩いてみましたけれども、このおもてなし宣言を大きく張ってあるところないんですよね。庁内のどこに張ってありますか、これ。やはり町民が来た中で、今役場は、町はこういうことをやっているんだなということがすぐわかるように、やはり各フロアの目立つところにですね、10項目並べろとは言いません。５つの項目なら項目に絞った中で、今月はこれを重点的に職員がやりますというような形で、そういう張り紙、ポスターをやるべきじゃないんでしょうか。そういうことによってですね、やはり職員の隅々まで、このおもてなし宣言というものが行き渡っていくのかな、こういうふうに感じますので、もう一工夫していただきたい、こういうように感じています。

それから、町民の声ですけれども、やはりこのおもてなしということに対してちょっと唐突な感じを受けている。実はですね、やはり２階にロボットが出た。町の広報で知ったけど、あのロボット何なの、幾らかかったの、初めて聞いたという声が多い。それから、絵はがきが何かの機会に配られています。あの絵はがきは何なんだろう、どうしてこれ使うの、こういう声も聞こえてきますね。寄合併60周年のバッジができた。これどうするの、私たちもつけるの。こういうところの説明不足が、町民に対してですよ、かなりある。町民の中から町税の無駄遣いじゃないのという声も聞こえているんですけれども、この辺に対して町のほうの反論をお聞かせください。

参事兼総務課長　質問幾つかあったかと思います。最初の部分、おもてなし宣言、庁舎内にわかりやすいところにという部分、これは早急に、どういうものにしたらいいのか検討の上、掲出する方向で進めたいと思います。

政策推進課長　絵はがき、それからバッジ、これ60周年でつくってございます。事あるごとに皆さんに配布させていただいておりますけども、松田のＰＲとしまして、絵はがきについては町の側からどこかへ発信していただければ、その方が町のことを知っていただけるというようなことで、何枚…３種類ほど作成しております。それからバッジについてもやはり松田を知っていただく、この記念行事を知っていただくという意味で、のぼり旗と一緒に掲出してございます。何のためっておっしゃられるとなかなかつらいところありますけど、やはり松田を知ってもらうと。それで、交流人口をふやすということの目的の一つとしてやっております。それから、これらの60周年記念に関しましては、国の補助を使っておりますので、それが100％当たっておりますので、町の税金ということではなく、国の補助で展開をしているところでございます。

ロボット、いわゆるペッパー君、公募しまして、ＳＯＲＡ君という名前をつけてやっておりますけども、これについても、ゆるキャラではないですけども、町の何かＰＲの一つとして、一助として導入をさせていただきました。本体が約30万円ほどになっております。以上です。（私語あり）すいません、本体そのものが20万でございます。

８　番　小　　澤　このロボットも全額補助ですか、国の。

政策推進課長　ペッパーにつきましては60周年記念とは別個で、町の備品として購入させていただいております。

議　　長　補助金は。補助金はという質問ですが。

政策推進課長　すいません。町の一般財として購入させていただいております。

８　番　小　　澤　私が言っているんじゃないんです。町民の声として出ているんです。ただね、やることは私いいことだと思っていますよ。ただ、事前説明が足りないんじゃないか。ロボット入れるについても、少なくとも３カ月前ぐらいの広報で、町はこういうものを入れてこういう形でやっていきますよというようなことをね、やはり町民に事あるごとに知らせて、事前説明をして知らせておく。絵はがき

もそうです。突然もらって、何これって、町民がびっくりしている。こういうものを出しますよ、だからこれでよその町に手紙を出してくださいよというような、そういうことをやっていった中でこの町をＰＲしていくって、事前説明が全く足りてないのかなということを感じましたんでね、その辺は、突然やるんじゃなくて、やはりこういうものをやるからということを事前に流しながら町民の理解を求めていくことが必要じゃないかなと思いますので、今後その辺は注意してやっていただきたい、こういうように思っています。

それからですね、そのおもてなしの関連で、また小澤のやつトイレのことをほじほじ言っているとよく言われますけれども、ただやはりおもてなし宣言をして、この町によそから来ていただこうというとき、特に女性のお客さんたちが新しい町の駅へおりたときに、まず最初に考えるのはトイレなんですよ。トイレどこにあるのかな。それを頭に入れた中で行動を起こしていきますんでね。この町へ住んでいる人間はどこでも用は足せますよ。ただ、知らない人が来たときに非常にやはり困る。おもてなしの第一番のことだろう。これはもう町長も重々承知をされているわけですからね。私は新松田の駅前云々言っていますけれども、非常に地形的に、地理的に難しいというような理由ありますけれども、だったらできるところからやっていきましょうよ、町ができるところから。これは住んでいる人にとってみれば、すぐそばに建てられちゃったら、いや、それは困るよ、ないほうがいいよになるでしょうけれども、やはりこのおもてなしのもとに、これから東京オリンピックに向けて大勢の方に来てもらうためにはどうしても必要なものなんです。だからその辺を説明をして理解を得ながらやはりやっていく必要はどうしてもありますよ。これだけ公衆トイレをないがしろにした自治体というのは本当に少ないですよ。このことをぜひですね、私はもっと自覚をしていただいて、早い時期につくっていただきたい。細かいことは言いませんけれども、そういう方向で進めてもらいたい、こういうように思っています。

それと、やはりＩＣカードが使えない問題。これはやはり、この沿線の住民が皆さん苦労をされている。東京・横浜方面から乗ってきて、松田の駅おりたら、あれ、機械がないよ、どうしよう、どうしよう。たまたま松田は駅員がい

るから処理ができた。じゃあ、下曽我でおりた、上大井でおりたときに、処理ができないんですよ。最寄りのその機械のあるところへ、次の日に行って処理をする、こういうような形になっててね、大変困っている。これはもう皆さん十分承知されていると思いますけれども、実は山北町の議会でもですね、９月でこの問題が取り上げられて、そしてＪＲ東海に話を行ったところ、なかなかいい返事が聞けなかった、こういうこともあります。

それから、ことしの６月にですね、みんなの党の井上…今はみんなの党なくなりましたね。井上義行参議院議員がですね、特別委員会の中でこの問題を取り上げて発言をしています。つい先日ですね、国交省の都市鉄道政策課の課長補佐とも会う機会がありまして、この問題も取り上げてお話をしたところ、山北の件は耳にしているよということで、国交省のほうでも承知をされている。やはり、これから東京オリンピックに向けて多くの観光客に来ていただく、あるいは松田町としてもそれ以前に観光客を誘致していこうという中でね、やはりこれが使えないということは大変不便を感じているわけですよ。ですから、この御殿場沿線の、静岡県の小山町から…小山町、山北町、松田、大井、それから小田原市、こういう沿線の自治体がですね、連携をして、そして今、神奈川県鉄道輸送力増強促進会議というものがあるそうですから、その中にやはり各町の首長さんが参加をされている。連携した中で要請をしていっていただきたいし、そしてまた地元の国会議員、あるいは県会議員に働きかけをしてですね、やはり東京オリンピックまでに何としてもこの観光受け入れ体制を確立していくことがですね、必要になってくる。もう既に要望しているからいいやじゃなくて、やはりあと５年間のうちに何としてもこれをなし遂げるようにですね、やはり自治体の首長さん初め、あるいは沿線の議員にも働きをおかけして、地域ぐるみでこれを実現させていただくように頑張っていただきたいと思いますけれども、その辺について、この松田町の対応をもう一度お伺いいたします。

参事兼観光経済課長　まずおもてなしの面、先ほどから出ております。その面につきましてのトイレの設置という形の御質問かと思いますけれども、今、町長等の答弁の中でもございましたけれども、恒久的なトイレ、それは当然お金も何千万という形が、小さいトイレでもかかります。ですから、それにつきましては当然まちづくり

の面で、ある程度全体を見た中での計画にしていきたい。当面、じゃあどうするかという形の中で、簡易トイレ。簡易トイレと申しましても、今、昔の簡易トイレでしたら汚い、使い勝手が悪いというトイレが主だったんですけれども、今ちょっとモダンな、エレガントなレンガ調の仮設トイレを設置する方向で、できるところにはそれを設置したい。ただしそれにつきましては、先ほど来申しますように、地域の方々と御相談し、設置をすべきではなかろうかなと。やはり御理解を得ることは必要かなというふうに考えております。また、今あるそれでは施設をどういうふうに活用するか、それは商工振興会の方々との協議になろうかと思います。昨日の答弁でもありましたけれども、それにつきましてはもう既に協議をしまして、できるところにつきましては御理解を得た店舗から１年を通してでも使わせていただくと。ただ、今、来てすぐにわからないというふうな形の面がございますので、そこら辺は店のその看板に影響されない程度、そういうような形のもので皆さんに御自由にどうぞという形のものを、商工振興会とも連携をしながら、また住民とも、住民の方々とも連携をしながら、できることから進めていきたい。決して町のほうがそれを先送りにしているのではなくて、それは相互の理解のもとに、できるところから、御理解を得たところから順次その形で、来てもすぐトイレがわかるよという形にしていきたいというふうに考えております。よろしくお願いいたします。

政策推進課長　御殿場線のＩＣカードについてでございます。先ほど町長の答弁にもございましたように、神奈川県・静岡県だけでなく、山梨県も巻き込んで一応要望はさせておいております。それから、静岡県におきましてもやはり国への要望はしていると聞いております。それから、ちょっとうわさというか、お話ですけども、大井では、機械は大井のほうで設置するから、インフラはそろえてくださいというふうにＪＲのほうへお願いしておると聞いております。それにつきましてもなかなかちょっとＪＲのほうで動いてくれないということがありますので、今後もいろんな、知事の中とか、そういうところに要望は極力してまいる所存です。それと、地元選出議員の方にもこれからお願いしていかなくちゃいけないのかな。2020年、確かにオリンピックまでには何とか整備をしていただきたいと。これは我々の力ではどうにもいけないんで、要望を続けさせてい

ただきたいと思います。

８　番　小　　澤　40分の時間が、もうあと６分しかありませんけども。大井町の話も聞いています。町で機械買うから、あとの維持管理をＪＲさんやってくれよと言ったけども、なかなかいい返事が返ってこない、聞いております。おもてなしのほうはもうこの辺にしたい。トイレのことはとにかく観光客を呼んでいく、おもてなしの精神を発揮していくんだという方針に立てばね、当然の帰結がなってこようと思いますので、一生懸命頑張ってください。お願いします。

それから、28年度予算のことについて、もう少し、もう少しでも基本の部分は聞けるのかなと思ったんですけれども、ちょっと答弁残念なところがありました。10月にまちづくり座談会をやった中で、12月の広報にも速報が出てました。けさ見てきましたけれども。町民の具体的な要望は出そろった。買い物難民の対策として、やはりミニスーパーが欲しい、移動販売車が欲しい、買い物のための無料駐車場が欲しい、こういうような意見、それから歩行者の交通安全のためから言っても、新松田駅前の整備は緊急にやってほしい。そして、空き家だとか町有地を活用して、住宅の提供ができるような定住化対策を進めてもらいたい。また、ハイキングコースをもっと整備して、そして観光客の誘致を図ってもらいたい。こういうような具体的な要望が町民の中から出されているわけですから、当然28年度予算の中でこれを具体化していくことが町には課せられてきているわけです。町長任期もあと２年になりました。28年度は正念場だろうと私は考えております。町長が言っているように、町民の要望を形にかえて、そして町民に応えていく。こういう信念のもとにですね、ぜひ28年度予算、できるものは具体化をしていく、こういうことを進めていっていただきたい。このことをお願いをしますけれども、最後に町長の御決意をお伺いして終わりにしたいと思います。お願いします。

町　　長　残り時間いっぱい使わせてもらってよろしいでしょうか。（「結構です」の声あり）先ほど来お話があるおもてなしについては、先日の平野議員からもありましたように、一部唐突感があるという御議論があるというのは十分に承知をしております。それを今現在そのおもてなしというキーワードについて、町の中でですね、よしあしも含めながらいろんなところで話が出ているというこ

とは、私としてはすごくいいことだなと思います。そのためには、じゃあこういうことがやらなきゃいけないんじゃないか、こういうことは我々が何ができるのかな。我々は何もやらなくて人にやらせようという人たちも一部にはいるようなところがありますので、先日お話があった自治基本条例というものに関しましての位置づけ、町民の方々、我々行政、議員の方々含め、主張する権利がある分、義務もある。役割もある。そういった条例も組みながら今後まちづくりについては皆さんに早め早めに提案をし、皆さんで御議論いただきながらまちづくりを進めていく。これは選挙に出るときの公約の中の自治基本条例を制定するということにも当てはまりますから、来年１年はしっかりとそういったことをやっていきたいということでありますので、それに必要な施策は今後ともやっていく。また、きのうと同じ話ですけども、おもてなしは松田町の歴史だというふうに、私はそういう認識をしておりますので、町民の人たちが一人残らずそういうことを認識していただけることにも取り組んでまいりたいというふうに思っております。

予算の件につきましての話ですけども、町長という任期は４年しかないというのは認識をしております。だからやる、やらないとかではなく、町民の方々が要望される声について、財政面も考えながら、優先順位を分けながらやっぱりやっていく必要性がある。とにかく選挙対策を目的として施策をやるのではなく、この町に必要なことを優先順位をしながらですね、やっぱり決めていく、そういった所存でありますので。ただ、直近で皆さんからいただいた御要望については、各参事も含めたところで、打ち合わせの中でこれをなるべくできるようにしてあげて、とにかく人口の減少、要は社会減というのがなくなるように。この町、住んでいても全然変わんねえや、だったらほかの町に行っちゃおうというようなことが絶対ないようにはですね、していかなきゃいけないというふうに思っておりますので、そういった観点を考えながら職員の教育等々も含めてやっていきたいというふうに思っています。以上です。

８　番　小　　澤　　終わります。

議　　長　　以上で受付番号第９号、小澤啓司君の一般質問を終わります。

暫時休憩といたします。10時45分より再開をします。　　（10時29分）